

オープン市場短信 (2014年5月)

2014.5.14

◆ 4月のCP市場動向

4月のCP（短期社債）月末残高は14兆2527億円で、有利子負債圧縮からの復活発行や新規資金調達が行われことから、前月比1兆6430億円の増加となった。但し、4月末残としては過去最低水準であった平成23年4月の14兆8651億円を下回る結果となっている。

一般事法では、鉄鋼・卸売・石油の増加が目立っていたほか多くの企業で復活発行が見られ、1兆2493億円の増加となった。また、その他金融が5416億円の増加で4か月ぶりに6兆円台に乗せ、金融機関も937億円の増加となった。ABC Pは、決算期末要因が剥落し2417億円の減少となった。

発行レートの動きについては、月初は投資家の購入ニーズが強く各ターム共に弱含み地合いとなった。下旬以降、レポレートが強含みとなった影響からCP足元現先レートが上昇する動きとなり、発行の多いショートターム物は強含み推移となった。長めのターム物については、発行が多くないこともあって投資家ニーズが引き続き強く、横這いから小幅上昇にとどまった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.082%～0.084% 一般事業法人（a-1格）0.082%～0.1305%
その他金融銘柄（a-1格）0.0820%～0.112%

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	4月末残高	3月末残高	増減
一般事法	35,647	23,154	12,493
その他金融	60,189	54,773	5,416
金融機関	29,670	28,733	937
（政府系金融	0	0	0）
（銀行等	11,591	11,616	▲ 25）
（証券	18,079	17,117	962）
ABCP	17,021	19,438	▲ 2,417
計	142,527	126,098	16,429

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

4月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0820% ~ 0.0870%	0.0740% ~ 0.0810%	0.0820% ~ 0.0840%
a-1 (一般事法)	0.0805% ~ 0.1100%	0.0840% ~ 0.1050%	0.0820% ~ 0.1305%
a-1+(リース銘柄)	0.0740% ~ 0.0810%	—— ~ ——	—— ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0880% ~ 0.1039%	0.0830% ~ 0.1120%	0.0820% ~ 0.1120%
a-2	0.1100% ~ ケ0.25%	0.1120% ~ ケ0.35%	—— ~ ケ0.40%

《CPオペ》

CP買入オペは、7日・17日・24日と3回実行され、各回4500億円にてオフアされた。5日のオペでは、足元現先レートの低下地合いを受けたこともあって、足切レートは前回比低下となった。17・24日のオペでは、発行増とディーラーが売却したい銘柄が多かったことが影響したためか、按分・足切レート共に上昇する結果となった。

【月末オペ残高：2兆1487億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オフア金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
4月7日	4月10日	4,500	9,420	4,440	0.075%	0.078%	11.0%
4月17日	4月22日	4,500	9,924	4,465	0.080%	0.082%	84.2%
4月24日	4月30日	4,500	8,105	4,190	0.087%	0.089%	25.9%

《ABCP》

ABCPの月末残は、1兆7071億円と前年同月を約2000億円下回る結果となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、4月末時点における発行登録企業数は日新製鋼が登録取消しを行ったため、1社減少となって495社となった。通算の発行企業数は変わらず、535社。

(注) 日新製鋼ホールディングス株式会社(4/1付けで日新製鋼株式会社へ商号変更)との合併に伴い、登録の抹消を行った。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、月初は0.065%~0.070%の出合いで推移し、新規発行増

とレポレートの上昇に影響され、月半ばから強含み地合いとなり0.095%～0.100%での出会いとなった。

◆ 5月のCP市場動向

5月のCP償還額は約2兆6600億円で、前年同月の償還額（約2兆8600億円）をやや下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、中旬以降から企業の賞与資金手当てや税払い等の資金調達ニーズが生じるため、期落ち比増加する見通しである。

3M物の最上位銘柄については、投資家ニーズ強く0.08%台前半から0.09%前後での出会いを予想する。また、一般銘柄では、0.08%台後半～0.09%台中心で、発行量の多い銘柄では0.10%近辺から0.13%近辺での出会いを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.09%台前半～0.15%近辺を予想する。

《CPオペ》

今月は、8日（実施済）・19日・27日と、計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて実施される予定（4月は、計3回：各4500億円実施）。8日のオペは、発行レートが弱含み推移となっていたことと応札可能な玉が少なかったことで、按分・平均落札レート共に若干低下する結果となった。次回以降については、発行レートと応札可能銘柄如何によるが、新規発行増から応札ニーズも相応に膨らむと思われるため、横這いから若干強含みを予想する。

月末オペ残高は、2兆円前後を予想する。

《CP現先市場》

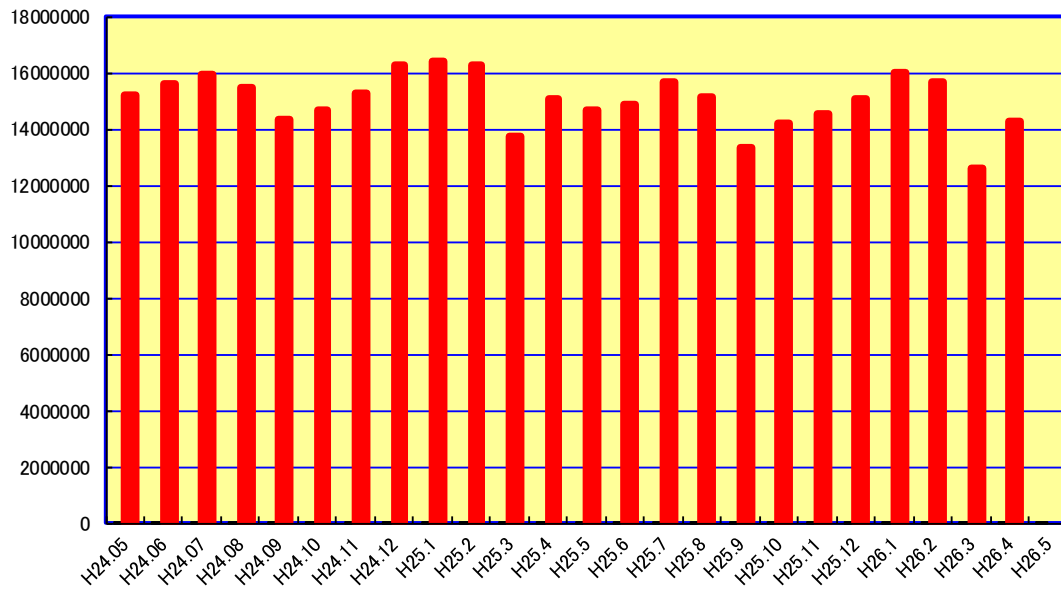
S/N物のレポレートは、先月より落ち着き0.06%台～0.08%近辺での出会いが予想される。インターバンクレートは、引き続き変化が少なく0.065%～0.075%近辺での推移であろう。CP現先レートは月初0.09%近辺でスタートし、やや弱含み地合いとなっている。中旬以降、新規発行増が予想されている事から、ディーラー保有が増加すると思われる。その為、現先売却ニーズが強まると思われるが、投資家の運用ニーズも強いため0.08%台前半～0.09%割れでの出会いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (24年5月～25年4月)

発行登録企業：495社（発行実績あり 535社）

(過去2年間の残高を表示)



4 月末発行残高ベスト 20

4 月末発行残高上位 20 社

(単位: 百万円)

	発行企業名	4月末残高	3月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	814,400	818,700
2	三菱UFJリース	774,600	712,300
3	東京センチュリーリース	630,800	610,000
4	三菱UFJモルガンスタンレー証券	558,500	553,800
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	501,540	553,300
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	JXホールディングス	451,000	450,000
8	SMBC日興証券	355,000	277,500
9	JA三井リース	335,000	335,000
10	興銀リース	330,000	334,500
11	みずほ証券	313,300	291,000
12	日本証券金融	313,000	429,000
13	エイペックス・ファンディング	307,060	320,710
14	NTTファイナンス	278,000	55,000
15	芙蓉総合リース	270,700	255,700
16	新日鐵住金	295,000	32,000
17	アルカディア・ファンディング	268,240	319,600
18	大和証券	262,080	266,480
19	三井住友信託銀行	232,700	245,600
20	三菱商事	208,000	0

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会